

京都市市民生活実感調査

～あなたの感じ方（お考え、ご意見）を、京都市の取組に生かします。～

京都市

平成19年4月

アンケート調査の目的

このアンケート調査は、京都市が取組を進めている様々な分野について、市民の皆様が「どのような実感をお持ちなのか」、また「何を重要と感じておられるのか」について調査することを目的としています。

皆様からいただいた回答を集計、分析し、その結果を市の政策評価（※）や市の仕事を効果的に進めるための重要な情報として活用していきたいと考えております。

※ 政策評価＝政策の目的がどの程度達成されているかを評価し、市民の皆様にお示しするとともに、次の政策、施策の展開に役立てる仕組み

記入方法

- アンケートは「施策ごとの生活実感」と「政策重要度」に分かれています。
- 「施策ごとの生活実感」（4ページから9ページ）
 - ・ 質問ごとに、あなたの実感やイメージに基づき、5つの選択肢の中から1つ選んで○を付けてください。
 - ・ 質問の内容が**分からない場合は、空欄**のままにしてください。
- 「政策重要度」（10ページ）

重要と思われる政策について、5つまで選んで○を付けてください。



同封の返信用封筒（切手不要）に入れて5月1日（月）までに投函をお願いいたします。

【ご記入に当たってのお願い】

- アンケート調査をお願いしたご本人（封筒の宛先となっている方）がお答えください。
- 直接調査票に記入してください。
- アンケート調査票、返信用封筒などには、お名前や住所を記入していただく必要はありません。

このアンケート調査は、市民の皆様の感じ方から政策、施策を評価し、今後の市政運営に役立てるために、**市内にお住まいの方の中から無作為に選んだ20歳以上の3,000人の方々に**アンケートへの記入をお願いするものです。

今回あなたに**お答えいただいた内容は、統計的に処理いたしますので、ご迷惑をおかけすることは一切ありません。**

何かとご多忙のこととは存じますが、本調査の趣旨をご理解のうえ、アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。

■この調査に関するお問い合わせ

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

京都市総合企画局政策推進室政策企画課 「京都市市民生活実感調査担当」

電話 075-222-3035 FAX 075-212-2902

ホームページ <http://www.city.kyoto.jp/sogo/seisaku/hyoka/hyoka.html>

（アンケート調査票は設問数が多いため、2つに分けて実施しています。

アンケートの調査内容を含め、すべての設問は上記ホームページからご覧いただくことができます。）



（用語説明）

政策・・・京都市基本計画に示した特定の行政課題に対応するために京都市政が目指すべき基本的方向をいう。

施策・・・政策を具体化した京都市の行政活動の目標をいう。

記入例

施策ごとの生活実感

京都市の行政活動の
目標です。

実感やイメージでお答
えください。

分からない場合は何も印をし
ていただかなくて結構です。

京都市の施策 〔京都市の行政活動の目標〕	質 問	選択肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
日々のくらしのなかに人権を大切に し、尊重し合う習慣が根付いた 「人権文化」の構築	Q1. 京都は普段の生活の中で「人権」を大切にし、尊重し合う 習慣が根付いている。	a	Ⓑ	c	d	e
子どもの人権の尊重	Q2. 一人一人の子どもの人格が大切にされ、子どもの権利が守 られている社会である。	a	b	Ⓒ	d	e
障害のあるひとの人権の尊重	Q3. 障害のあるひとが、様々な面で暮らしやすいまちになって きている。	a	b	c	Ⓓ	e
多文化共生社会の実現	Q4. 国籍、民族、文化等が違ってもお互いに理解し合い、共生 する社会になってきている。	a	b	Ⓒ	d	e
だれもがずっとくらし続けたく なるすまい・まちづくり	Q5. 今住んでいる住宅や周りの環境には満足している。	a	Ⓑ	c	d	e
高齢者や障害のあるひとの能力向 上や働く場の確保	Q6. 高齢者や障害のあるひとの働く場が確保されている。	Ⓐ	b	c	d	e
学校と家庭・地域の連携	Q7. 学校と家庭・地域が一体となって子どもたちを見守ってい る。	a	Ⓑ	c	d	e
障害のある子どもの教育の推進	Q8. 障害のある子どもの状況に応じた養護育成教育が行われて いる。	a	b	Ⓒ	d	e

京都市の施策 〔京都市の行政活動の目標〕	質 問	選択肢				
		そう思う	どちらか という と思う	どちらとも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
日々のくらしのなかに人権を大切に し、尊重し合う習慣が根付いた 「人権文化」の構築	Q1. 京都は普段の生活の中で「人権」を大切にし、尊重し合う 習慣が根付いている。	a	b	c	d	e
子どもの人権の尊重	Q2. 一人一人の子どもの人格が大切にされ、子どもの権利が守 られている社会である。	a	b	c	d	e
障害のあるひとの人権の尊重	Q3. 障害のあるひとが、様々な面で暮らしやすいまちになって きている。	a	b	c	d	e
多文化共生社会の実現	Q4. 国籍、民族、文化等が違ってもお互いに理解し合い、共生 する社会になってきている。	a	b	c	d	e
だれもがずっとくらし続けたく なるすまい・まちづくり	Q5. 今住んでいる住宅や周りの環境には満足している。	a	b	c	d	e
高齢者や障害のあるひとの能力向 上や働く場の確保	Q6. 高齢者や障害のあるひとの働く場が確保されている。	a	b	c	d	e
学校と家庭・地域の連携	Q7. 学校と家庭・地域が一体となって子どもたちを見守ってい る。	a	b	c	d	e
障害のある子どもの教育の推進	Q8. 障害のある子どもの状況に応じた養護育成教育が行われて いる。	a	b	c	d	e

京都市の施策 〔京都市の行政活動の目標〕	質 問	選択肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
ゆとりと潤いのある学習環境づくり	Q 9. 最近の学校は施設や設備が充実している。	a	b	c	d	e
高齢者とその家族の生活を支えるサービスの充実	Q 10. 高齢者とその家族を支えるサービスが充実している。	a	b	c	d	e
母と子のいのち・健康を守る保健医療の充実	Q 11. 子どもを産み育てるときに、気兼ねなく健康相談を受けたり、病院にも行けるなど、安心である。	a	b	c	d	e
障害のある子どもや養護に欠ける子どもの子育て支援	Q 12. 障害のある子どもや養護に欠ける子どもに対する子育て支援が十分に行われている。	a	b	c	d	e
子どもたちがのびのびと健やかに成長できるしくみづくり	Q 13. 子どもの居場所や遊び場所があるので、様々な体験ができる。	a	b	c	d	e
市民の健康をしっかりと守る取組の推進	Q 14. 医薬品の副作用や食中毒、感染症など健康に関する情報が手に入れやすい。	a	b	c	d	e
精神保健・医療・福祉サービスを支える体制の整備	Q 15. 精神に障害のある人への保健、医療、福祉サービスが充実している。	a	b	c	d	e
スポーツ活動の機会や施設に恵まれたまちづくり	Q 16. 地域において、気軽にスポーツを楽しむ機会がある。	a	b	c	d	e

京都市の施策 〔京都市の行政活動の目標〕	質 問	選 択 肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
環境と共生するくらしの実現	Q17. 「きれいな空気, 清らかな川, 静かなまち」など, よい環境が保たれている。	a	b	c	d	e
京都のまちの特色に配慮した災害に強いまちづくり	Q18. 建物の耐震対策や防火水槽の設置などにより, まち全体の防災機能は高くなってきている。	a	b	c	d	e
市民のくらしと豊かな文化・歴史の蓄積を守る災害に強い組織づくり	Q19. 地域の自主防災組織があるので, 災害から身を守るために, 住民同士協力しあえるようになってきている。	a	b	c	d	e
消費者が自立し安心してくらせるまちづくり	Q20. 情報提供や啓発活動などにより, 消費者被害に遭わないための知識が備わってきた。	a	b	c	d	e
歩くまちの歩行空間の形成と自転車利用の促進	Q21. 歩道の電柱や段差がなくなるなど快適になった。	a	b	c	d	e
歩くまちをつくる新しい交通政策の推進	Q22. 公共交通機関を利用する人が増えている。	a	b	c	d	e
新しい交通政策の確立						
個性的で美しい景観の形成	Q23. 京都の個性的なまちなみ景観が守られている。	a	b	c	d	e
木の文化が息づくまちづくり	Q24. まちなかには文化を感じさせる木造建築がきちんと残っている。	a	b	c	d	e

京都市の施策 〔京都市の行政活動の目標〕	質 問	選択肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
市民文化の振興	Q25. 市民の文化活動が盛んである。	a	b	c	d	e
豊かな文化資源を生かした芸術文化の振興	Q26. 京都ならではの文化資源を生かした文化・芸術活動が盛んである。	a	b	c	d	e
文化と観光・産業の連携	Q27. 観光や産業振興に文化資源がうまく活用されている。	a	b	c	d	e
都市の活力を生む多様な交流の推進	Q28. 関西圏での連携や周りの都市との交流が行われているので、京都のまちに活気が生まれている。	a	b	c	d	e
時代に応じた学習関連施設の充実	Q29. 図書館や色々な博物館など、いつでも学べるような環境が整っている。	a	b	c	d	e
京都独自の新たな産業関連都市の構築	Q30. 京都の特色を生かした産業活動が活発に行われている。	a	b	c	d	e
地域に密着した商業の振興	Q31. 市内の買物環境に満足している。	a	b	c	d	e
21世紀の京都を牽引する観光の創造	Q32. 社寺のライトアップなど、新たな観光資源の開発が活発である。	a	b	c	d	e

京都市の施策 〔京都市の行政活動の目標〕	質 問	選択肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
海外からの観光客誘致の強化	Q33. 京都は海外からの観光客にとって魅力的な都市である。	a	b	c	d	e
観光客を温かくもてなすしくみづくり	Q34. 京都は観光客を温かくもてなすまちである。	a	b	c	d	e
京都をあげての観光振興の推進						
産学公の連携の推進	Q35. 大学の人材・研究成果は産業活動に役立っている。	a	b	c	d	e
大学施設整備への支援	Q36. 京都の大学は、施設や環境が充実している。	a	b	c	d	e
産業や文化など若者の活躍の場づくり	Q37. ベンチャー企業支援や若者企画のイベントなど、京都は若者が活躍できる場である。	a	b	c	d	e
保全・再生・創造を基調とするまちづくり	Q38. 美しい自然や町並みが保たれている一方、南部地域には企業が集積するなど、多様なまちづくりが進んでいる。	a	b	c	d	e
まちづくりを支えるしくみづくり	Q39. 景観や住環境を守るための住民によるまちづくり活動が盛んになってきている。	a	b	c	d	e
都市圏内の交流を支える交通網の充実	Q40. 鉄道網や道路網が発達しているので、近隣の都市へ出かけるのに便利だ。	a	b	c	d	e

京都市の施策 〔京都市の行政活動の目標〕	質 問	選択肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
高度情報通信社会に対応するための 基盤整備	Q41. インターネットをはじめとした情報通信技術（ＩＴ）を だれもが利用しやすい。	a	b	c	d	e
情報基盤を活用した企業活動の支 援	Q42. 企業のＩＴ化は十分進んでいる。	a	b	c	d	e
高齢者や障害のあるひとへの高度 情報化による支援	Q43. 情報通信技術は高齢者や障害のあるひとの社会参加に役 立っている。	a	b	c	d	e
市民の目線での市政情報の提供や 公開	Q44. 市民しんぶんやその他の市政広報は、くらしの役に立つ 情報が掲載されている。	a	b	c	d	e
市民とともに政策を企画・実施・評 価していくための情報の共有	Q45. 市政に参加したいと思ったときに、必要な情報を得やす い。	a	b	c	d	e
個性ある政策を形成するための条 件整備	Q46. 京都独自の政策が打ち出されている。	a	b	c	d	e
新たな発想・手法を取り入れた行政 運営の推進	Q47. 役所の仕事ぶりは、以前よりも良くなった。	a	b	c	d	e
公共事業の再評価	Q48. 公共事業の再評価によって事業の点検がしっかりできて いる。	a	b	c	d	e
区役所の総合庁舎化	Q49. 区役所で保健や福祉のサービスも利用できるなど、便利 になった。	a	b	c	d	e

政策重要度

京都市では、次のような各分野の政策に取り組んでいます。

この中で、あなたにとって今、特に大切と思われる分野について、**5つまで選んで**「○欄」に○を付けてください。

分野・政策名	○欄	分野・政策名	○欄
1 人権文化 [ひとりひとりが個人として厚く尊重される]		15 生涯学習 [生涯にわたってみずからを磨き高める]	
2 住環境 [すべてのひとがいいきと活動する]		16 産業 [産業連関都市として独自の産業システムをもつ]	
3 しごと [すべてのひとがいいきと活動する]		17 観光 [魅力ある観光を創造する]	
4 学校教育 [子どもたちが心豊かで社会性を身につけみずからの生き方を学ぶ]		18 大学 [大学の集積・交流が新たな活力を生み出す]	
5 福祉 [すべてのひとが相互に支え合い安心してくらす]		19 青少年 [若者が集い能力を発揮する]	
6 子育て [子どもを安心して産み育てる]		20 個性と魅力あるまちづくり [個性と魅力あるまちづくり]	
7 健康（保健・医療，スポーツ） [心身ともに健やかにくらす]		21 交通基盤 [多様な都市活動を支える交通基盤づくり]	
8 環境 [環境への負担の少ない持続可能なまちをつくる]		22 高度情報化 [高度情報通信社会に対応できる基盤づくり]	
9 消防・防災 [災害に強く日々のくらしの場を安全にする]		23 情報公開 [情報を市民と共有する]	
10 生活安全（犯罪・事故，消費生活） [日常生活における身近な安全や安心を確保する]		24 市民参加 [市民の知恵や創造性を生かした政策を形成する]	
11 歩いて楽しいまちづくり [歩いて楽しいまちをつくる]		25 市政改革 [市民とともに政策を実施する]	
12 美しいまちづくり [美しいまちをつくる]		26 行政評価 [市民とともに政策を評価して市政運営に生かす]	
13 文化 [成熟した文化が実現する]		27 区役所を拠点とする地域づくり [個性を生かした魅力ある地域づくりを進める]	
14 国際交流 [国内外との多彩な交流を行う]			

※ []は、京都市基本計画の政策項目で

す。

① 性別													
1. 男					2. 女								
② 年齢													
1. 20 歳代		2. 30 歳代		3. 40 歳代		4. 50 歳代		5. 60 歳代		6. 70 歳代		7. 80 歳以上	
③ 職業													
1. 自営業・自由業			2. 会社員・公務員等給与所得者			3. 主婦・主夫							
4. 学生			5. 無職			6. その他（ ）							
④ 居住区													
1. 北区		2. 上京区		3. 左京区		4. 中京区		5. 東山区		6. 山科区			
7. 下京区		8. 南区		9. 右京区		10. 西京区		11. 伏見区					
⑤ 京都市での居住年数													
1. 5 年未満			2. 5～11 年未満			3. 11～31 年未満			4. 31 年以上				

- 11 -